

令和の世に蘇る、 薩摩スチューデントの軌跡。

令和2年度特別企画展

村橋久成展「残響」

まだ誰も、その男の全てを知らない。



youtube



村橋久成 (1842-1892)

薩摩藩の名門家に生まれた村橋久成。開拓使麦酒醸造所(後のサッポロビール)を建設したのち、突然行方をくらまし非業の死を遂げる。久成の数奇な人生の軌跡と、生涯をかけて久成の残響を追い求めた北海道在住の作家故・田中和夫氏の情熱の歴史を紹介しています。



令和3年度特別企画展

五代友厚展 「RED HEART 赤き心」

それは、破壊か創造か。



youtube



五代友厚 (1836-1885)

薩摩藩に上申書を提出し英国留学生を実現。明治政府の官僚を務めたのち在野に降り、大阪から日本の経済や産業の発展に尽力した五代友厚。幼少時代の逸話や、払い下げ事件の汚名の真相を、長崎・大阪・鹿児島関係者の証言を集めながら解き明かします。



令和4年度特別企画展

町田久成展「守るひと」

守ることでは、つくれない未来があった。



youtube



町田久成 (1838-1897)

日本最古にして最大級の博物館、東京国立博物館の創設に尽力し初代館長を務めるも、突然辞職し仏門に入り住職として生涯を閉じた町田久成。子孫の方々とともに、東京国立博物館や滋賀の三井寺を訪ね、久成が何を守り、何を伝えようとしたのかを、さまざまな角度から探りました。



元治2年(1865年)鎖国の禁を破り羽島の海から英国へ密出国した19名の若き侍たち。日本の近代化の礎となった彼らの人生を紹介する薩摩藩英国留学生記念館では、令和2年度より一人の留学生をフィーチャーした特別企画展を開催し、子孫や関係者、ゆかりの地を訪ね今を生きる人々の声に耳を傾け、ドキュメンタリー映像やパネル展示を行っています。YouTubeで過去の映像を無料配信していますので是非ご覧ください。



律するとは?

海から日本を見た男

Junzo Matsumura
EXHIBITION 2024

薩摩藩英国留学生記念館 令和5年度特別企画展

松村淳蔵展

会場

2024.1.27 SAT - 6.24 MON



薩摩藩英国留学生記念館
SATSUMA STUDENTS MUSEUM



鹿児島県いちき串木野市羽島4930番地 TEL 0996-35-1865 <http://www.ssmuseum.jp>

【開館時間】10:00～17:00【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日) 川内駅・串木野駅から無料送迎バス運行【要予約】

【観覧料】大人(高校生以上)300円 小人(小・中学生)200円 ※団体割引(20名以上)、障がい者手帳を保有するお客様は一律50円引き

1863年の薩英戦争により西洋の技術力を思い知らされることとなった薩摩藩は、そのわずか2年後(1865年)に、英国に19名の若者を留学させた。時は鎖国の世、国禁を犯しての密出国、一人ひとりに藩主から任務と名前(変名)を与えられ、ここ羽島の海から旅立っていった。23歳の市来勘十郎もその一人。松村淳蔵と名前を変え、海軍測量術を学ぶ目的で英国に渡りロンドン大学ユニバーシティカレッジに入学。2年後には日本や薩摩藩の状況の変化や財政難もあり米国へと渡っている。米国ラトガース大学で学んだのち紆余曲折を経て、日本人として初めてアナポリス海軍兵学校に入学・卒業している。

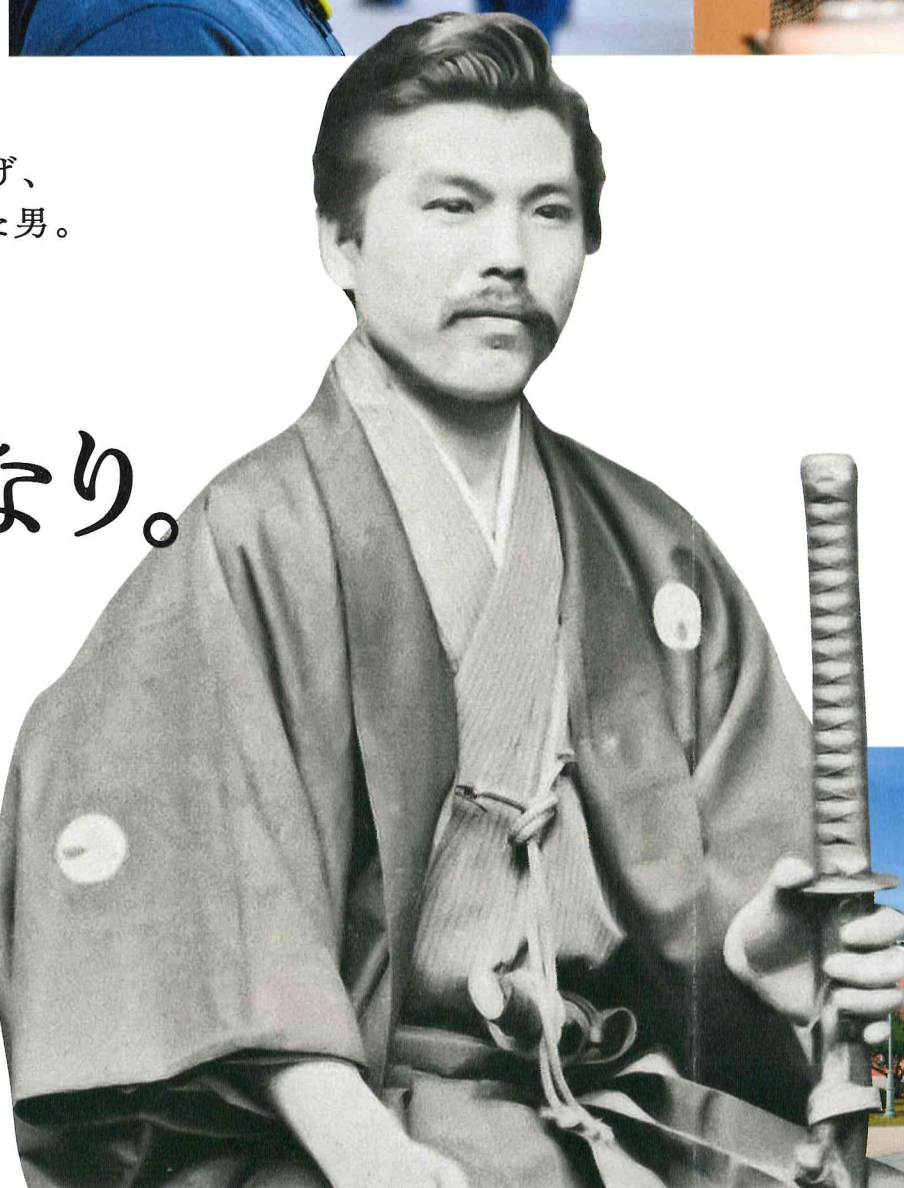


海軍創世記の海兵教育に情熱を捧げ、近代日本を海から実現させようとした男。

我が名は、松村淳蔵なり。

MATSUMURA JUNZO 1842 - 1919

当時の最先端の海軍術を身につけ帰国した後は、日本海軍の要職を経て、海軍兵学校の校長を4度務めるなど、初期の日本海軍の海兵教育の発展に大きく貢献している。留学時の変名で通したのは、後に米国でワイン王となった長沢鼎と松村淳蔵の二人だけである。さらに留学時の藩命「海軍測量術」を最後まで全うしたのは、松村淳蔵のみである。松村淳蔵はなぜ、薩摩藩亡き後も、藩主から与えられた任務を守り、名前を使い続けたのだろうか？ 忠誠心、責任感、純粹さ、正義感… 彼の人となりを一言で言い表わすことは容易ではない。しかし、これこそが、松村淳蔵の最大の魅力であり謎である。松村淳蔵にとって「律するとは」何であったのだろうか？



30年の時を経て、150年前の男の人生が浮かび上がる。

今から30年前、一人の女子大生が発表した卒業論文「薩摩藩派遣英国留学生 松村淳蔵の場合」。今回の企画展では、論文の主・高橋史子氏に協力をお願いし、留学生の中でも知名度が高いとは言えない松村淳蔵をテーマに選んだ理由や論文制作の背景、子孫の方々との交流などを通して、松村淳蔵の真の姿を探った。高橋氏が論文制作時に助言を仰いだことがきっかけとなり始まった淳蔵のひ孫・淳次氏との交流。30年に渡って手紙や電話を通して交流を続けてきた両氏が初めての会談を実現。また、松村家の未来を担う淳次氏の孫である勇哉氏と共に、広島県の呉や江田島を訪ね、日本を海から衛る海上自衛隊幹部候補生や関係者たちの姿を追った。さらに、東京の海晏寺の非公開墓所にある松村の墓碑などの取材を敢行、今を生きる人たちの声と共に、貴重な映像・画像も公開している。

